

# とかす力 (八木重吉の詩を愛好する会会報)

(事務局及び会報) 〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継

Eメール [kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com)

携帯電話 09061674553

☆ 第 34 号

☆2025年(令和7年)

8月28日発行

## ★2025年の茶の花忌案内

非常に暑い夏が続いていますが、8月も後半になると、今年も茶の花忌が近づいているのだと思わずにはいられません。今回は、愛好会主催の「愛好者たちで作る茶の花忌」の2回目です。すでに概要は決まっていますのでお伝えします。愛好者の皆様、是非ご参加下さい。

### 〇12:30~13:00 受付(愛好会スタッフ)

- ・受付簿記入
- ・プログラム、案内図、アンケート用紙、講話内容等の資料配布

### 〇13:00~13:30 墓前礼拝(讃美歌、祈り、感話)

司会進行(小林) 感話(苅部幹央氏、元横浜女学院教師で重吉研究者)



大戸観音堂

### 〇13:30~15:30 八木重吉を偲ぶ会(司会進行 原きよさん)

前半(合同で) 13:30~14:30

- ・主催者開会の挨拶(小林一開催のコンセプト)
- ・講話

今高義也氏(『八木重吉とキリスト教』(新教出版社)の著者)

現在、重吉の愛読した新約聖書の書き込みの研究論文を『信徒の友』に連載中

小澤則男氏(茨城キリスト教学園の教師を退職後、重吉の詩や聖書の言葉に画を付け、詩画展開催)

- ・重吉のライブ演奏・歌唱(YO=ENさん)

ギャラリービブリアの十松弘樹氏と国立中心にライブ活動展開。詳しくはQRコードをクリック



- ・重吉詩の朗読(10人くらいの方が好きな詩を次々に1篇ずつ読む)

各自が心を込めて詠み、重吉詩の魅力を共有します。あなたも希望あれば連絡を下さい。

後半(2つに分かれての活動) 14:30~15:20

#### ① 歴史散策(案内は神林由貴子さんに依頼)

神林さんは、町田市民文学館の学芸員で、自らもタウン誌に重吉詩の解説文を連載。

#### ② 庭での活動(記念館見学、書籍・CD等展示及び頒布、語らい交流等)

見学、書籍やCDの展示頒布、愛好者の文章展示などを通して、互いに交流を深める

再集合(全員) 15:20~15:30

讃美歌(墓前の時と同じ重吉愛唱歌の1番のみ)

主催者閉会の挨拶(小林一重吉没後100周年に向けてのお願い)

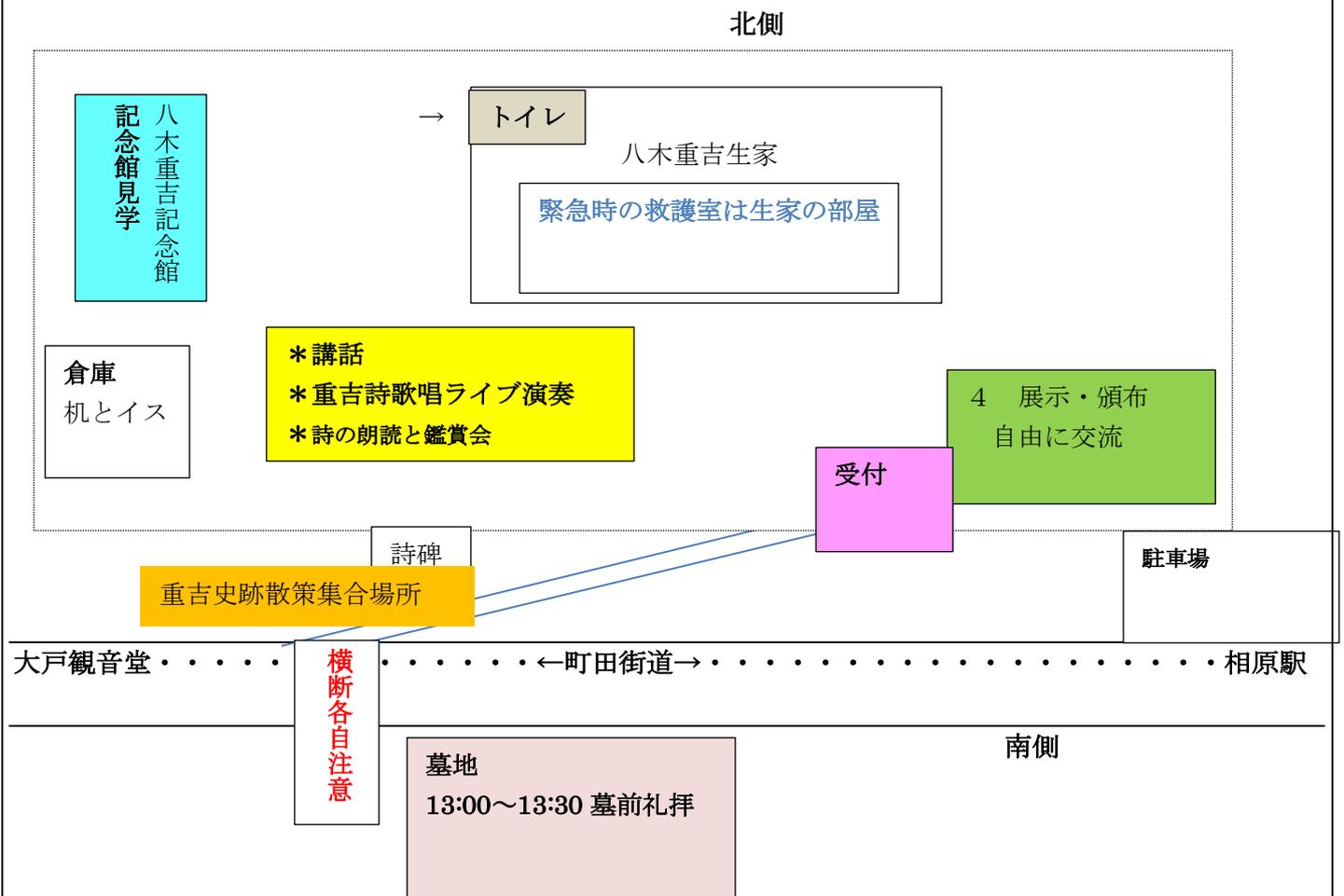
### 〇 茶の花忌終了後、希望者は橋本駅で茶話会(帰りまでに適宜スタッフに申し出て下さい)

\*雨天中止(小雨でも、降り続く雨は中止です。各自判断、問い合わせは09061674553 小林へ)

\*駐車場は関係者及び障害者のみ。公共交通の利用をお願いします。

なお、当日10時から会場づくり等を行いますので、時間に余裕があって協力してもらえる方はイベントが始まる前にお出で下さい。

★活動場所案内図（当日受付でも配布予定）



★便りから紹介

2人の作曲家

茅ヶ崎八木重吉の会 亀井瑞世

昨年、私は感動すべき2つの合唱コンサートを聴く幸運に恵まれました。9月、横浜みなとみらい小ホールでの新声会合唱団第59回コンサート、指揮者は柳川直則先生92歳。私は「とかす力」第29号（2023・10・10）に、ピアニストの及川芳子さんが書かれた「合唱曲で近づいた八木重吉の詩」を読んで、直ぐに及川さんにお手紙を書き、合唱曲集「秋」を購入しました。以前混声合唱団で歌っていた私は譜面が欲しかったのです。ピアノは弾けないのですが、推しのグッズを持つ気分でした。

その時点で、合唱曲集「秋」の初演コンサートは終わっていましたが、昨年9月の演奏会のアンコールで「夕焼」が歌われることが決まると、及川さんからお電話を頂き、招待券もお送り下さいました。柳川先生指揮のコンサートは情熱溢れる繊細かつ力強い素晴らしいものでした。ところが、アンコールの「夕焼」はあっという間に終わり、どんな曲だったか全く記憶になく思い出せないのでした、、、

私はどうしても曲が知りたくて、夫に伴奏のCD制作を頼み、それを聴きながら必死で練習をしました。柳川先生の「夕焼」は歌い込めば歌うほど、優しく心に沁みってくる素晴らしい曲でした。今「秋」全曲を是非聴いてみたいと心から思っています。

11月、神奈川県立音楽堂での横浜混声合唱団・点コンサート、指揮者は吉田孝古麿先生90歳。吉田先生は茅ヶ崎の重吉詩碑「蟲」の作曲者です。その日は吉田先生の指揮活動70周年の記念コンサートであり、指揮者としてのラストコンサートでもありました。音楽愛が溢れる、とても感銘深いものでした。

毎年、茅ヶ崎では建立記念日に参加者みんなで「蟲」を歌うことから会を始めています。今年私は、各自が詩の朗読をする時に「夕焼」も歌いたいと思っています。茅ヶ崎は今年詩碑建立20周年を迎えます。川井（春）、太田、亀井の3人で茅ヶ崎の子ども達や市民の皆さんへのPRを考えています。ご興味のある方は今秋10月2日午前11時、図書館の隣りにある高砂（たかすな）緑地の詩碑前にどうぞおいで下さい、お待ちしております。

## ★茅ヶ崎のイベント案内

「茅ヶ崎八木重吉・詩碑建立 20 周年記念の会」 開催のご案内

日時： 2025 年 10 月 2 日（木）

午前 10:00～11:30 当日現地集合、予約は必要ありません。

場所： 茅ヶ崎市高砂緑地内 八木重吉詩碑前集合（JR 茅ヶ崎駅南口下車  
徒歩 5 分（図書館隣り美術館への道中にあり）

行事内容： 重吉メンバーによる詩碑「蟲」の歌唱と詩の朗読会  
その後、参加者の皆様と美術館アトリエへ移動  
参加者皆様と詩の朗読、八木重吉についての語らい。

参加者： 「茅ヶ崎八木重吉の会」メンバー 「茅ヶ崎子どもの本を読む会」有志  
「茅ヶ崎 茅短歌会」有志

主催： 茅ヶ崎八木重吉の会

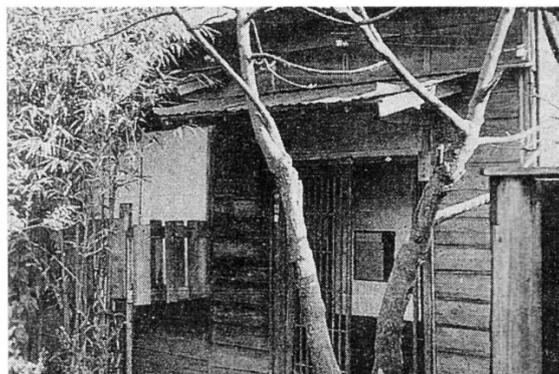
雨天決行ですので、その場合は十分気を付けてお出で下さい。

参加費： 無料



詩碑「蟲」（平成 17 年建立）

### 茅ヶ崎で重吉が澄んでいた借家とその後の変遷



↑ 老朽化した借家が戦後まで残っていた



←

昭和 30 年代以降。新しい家が建ち、井戸（左側の樹木の下）枠の丸いコンクリートだけが、その地点を伝えていたが、その後、更に新しい家々が建ち、井戸も無くなり周辺も一変し、面影は全く無くなってしまいました。

## ★新聞記事紹介

読売新聞 6 月 29 日朝刊（金野実加枝さんより提供）

### 編集手帳

明治生まれの詩人、八木重吉（享年 29）は、結核と貧困にまとりつかれて歩く日々を次のように表現した。／かなしみと／わたしと／足をからませ／たどたどとゆく／（「悲しみ」）◆心もとない、たどたどしい足取りはまだそのままかもしれない。おとし、猛暑の夏に娘を熱中症で失った山形県米沢市の両親が、熱中症予防の手引を作成したという本紙記事を読んだ◆当時、中学 1 年生の島屋乙葉さんは剣道の部活動を終えた後、通学路で倒れて救急搬送された。手引は A3 判二つ

折り。水分補給や首とわきの冷却などの予防法に加え、最期をみとった両親が痛々しい言葉を寄せている◆入息を引き取る直前に流した涙。悔し涙だったのか、ごめんささいの涙だったのか。同じ事が起こらないように「乙葉と私たちの願いです」。◆「乙葉リーフレット」と名づけられ、教委が市内の小中学校に配布している。子供たちを守るという切実な誓いが広く伝わることを願う◆／かなしみを／ひとつに 統ぶる 力はなにか。重吉は別の詩でこんなことを言っている。熱中症に奪われる命は毎年、千人を超える。

\*八木重吉の〈かなしみ〉が新聞記事のような場面で引用されることが適切なのかわかりませんが、それでもふっと浮かんで来る記者がいることはうれしいことです。読者が減っているのかなあと心配すると、実は不思議にまた読者、記者、研究者から連絡が来ます。この不思議な現象が重吉の特徴の 1 つかもしれません。

重吉没後 100 年に向けてまず今年の茶の花忌実施が目標です。愛好者皆で作り上げましょう。不思議な重吉の魅力に導かれて！

（小林）

## ★朗読劇グループ「コトザウルス」の紹介

今年の茶の花忌で、八木重吉を偲ぶ会の司会を担当していただき、原きよさんが属している朗読劇グループ「コトザウルス」が、戦争の反省と平和を願う8月に、戦争をテーマにした特別公演を開催しました。朗読劇のグループだけあって、メンバーの皆さんの良く通る声と豊かな表現力で、聴衆に感動を与えました。

### 8月17日当日のプログラム

### 案内チラシの内容

第40回特別公演コトザウルス朗読コンサート

戦後八十年 今、伝えたい 「ムクノキの記憶」

- |                                 |               |
|---------------------------------|---------------|
| 1.『ムクノキの記憶』 原きよ                 | 小幡研二          |
| 2.『わたしの戦争体験』 高木ブーさんインタビューより     | 木村 徹          |
| 3.『桔梗』 金井 直                     | 井上智博          |
| 4.『谷間に眠る男』 アルチュール・ランボオ          | 熊坂圭吾          |
| 5.『夜の春雷』 田辺利宏                   | 小幡研二          |
| 6.『東京大空襲 証言』                    | 原 きよ・長谷由子     |
| 7.『大人になれなかった弟たちに…』 米倉喬加年        | 護森レイナ         |
| 8.『ひめゆり部隊 証言』                   | 近藤奈保          |
| 9.『ヒロシマ連祷』                      |               |
| 窪田等・長谷由子・小幡研二・原きよ・木村徹・井上智博・熊坂圭吾 |               |
| 10.『ヒロシマの空』 林 幸子                | 護森レイナ・井上智博    |
| 11.『わたしが一番きれいだったとき』 茨木のり子       | 近藤奈保          |
| 12.『八月十五日の子どもたち』 より             | 原 きよ          |
| 13.『クラウディアの手紙』 峰谷彌三郎 手記より       | 窪田等・長谷由子・原 きよ |
| 14.『サンゴ礁に沈んだ戦闘機』 長谷由子           | 西野真澄          |

音楽：藤井秀亮 ナビゲーター：西野真澄

資料提供：広島平和記念資料館 東京大空襲・戦災資料センター すみだ郷土文化資料館

コトザウルスの「YOU TUBE」番組ご案内！

「コトザウルスがお届けする心に響く言葉『コトギフト』

右のQRコードからおはிரいいただけます。ぜひチャンネル登録を！



第40回特別公演 コトザウルス朗読コンサート

歴史上、最も多くの被害と戦死者を出したあの戦争から80年が経ちました。文字通り「戦争を知らない子供たち」である私達コトザウルスが、心から平和を希ってお届けする朗読コンサートです。

コトザウルスは、私の師匠・鎌田弥恵の“若い朗読者を育てて欲しい”という言葉からスタートし、回を重ね40回……

朗読の面白さ、言葉の持つ力を、私達自身が実感しながら、聴いて下さるお客様にその作品の世界を感じていただくことが使命だと思っています。

楽しいお話、ちょっと笑える朗読を得意としている私達ですが、時には苦しい言葉も届けなければなりません。平和を希って……

企画 長谷由子

出演



長谷由子

窪田等

小幡研二



原きよ

近藤奈保

護森レイナ

西野真澄



木村徹

井上智博

熊坂圭吾

音楽：Ryo

ご予約・お問合せはコトザウルス事務局まで  
03-3815-6720 ・ 090-2320-2491  
X アカウント @kotozaurusu  
Facebook アカウント @kotozaurusu

2025年8月17日(日)  
文京区シビックセンター小ホール  
15:00開演 14:30開場  
チケット 一般 4000円  
中学生以下 2000円

脚本 長谷由子・コトザウルス  
演出 狭間鉄  
音響 渡辺裕紀  
照明 梅木信良  
制作 コトザウルス  
協力 シグマ・セブン マック・ミック 俳協



東京メトロ後楽園駅・丸の内線(4a-5番出口)  
南口駅(5番出口)徒歩1分  
都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線(10分)徒歩1分  
JR総武線水戸線(東口)徒歩9分

←「コトザウルス」に興味のある方は是非チャンネル登録をしてあげてください。

## ★流山市の江戸川台教会での、朗読劇「八木重吉の世界—詩と生涯」の報告

6月22日(日)午後、千葉県流山市江戸川台にある、日本キリスト合同教会江戸川台教会で教会員有志で構成した朗読劇が披露されました。1時間にわたり、重吉の多くの詩が朗読され、重吉の世界にたっぷり浸りました。脚本・演出をした梅澤泰子さんから招待をいただいて参加したのですが、重吉の生涯に沿っての構成になっていましたので、重吉を思いながら、心に染み入る詩をたくさん聴き堪能しました。全部で60余りの詩が朗読されました。

10年前、重吉が勤務した東葛飾中学(現高校)の90周年行事でも朗読劇が披露されましたが、その時指導された梅田氏に、梅澤さんたちも指導を受けたそうで、東葛飾高校100周年の今年に再び、江戸川台教会で重吉の朗読劇を視聴できてよかったですと思います。

